

*…壁面収納

リフォームを計画している人の家は、失礼ながら汚い。少しずつ、長年の暮らしのアカがたまっていくだろう。また、どんなにきれい好きでも、リフォームするのにかたかたに磨きたてる人はいない。

そればかりではなく、総じて部屋の中の家具が多いのだ。一つ増え、次にまた必要に迫られて買い足しているうちに増えたようだ。当然のように統一性はなく、デザイン的にもどうかというような家具に囲まれている。ほとほとこの暮らしがいやになっていくように、出てくる不満は「わが家は狭い！汚い！」だ。

Let's リフォーム

西田恭子

でも、面積的にはそんなに広くはないのに、広々と暮らしている家がある。ゆったりとしたソファもセツトされ、なぜだろう？と思うと、壁一面が壁面収納になっているのだ。少しずつ蓄積される雑多なものは、そこにすべて集約され、物にあふれるという経年劣化を踏みとどまっている。

写真のお宅はリフォームを機に壁面収納を作った。いつおじゃましても、とても気持ちよい。小さい子供がいる家は、だんだん物が増えるし、ちらかりやすいはずなのに、すっきりした暮らしになっている。子育て



テレビ置き場や写真の飾り棚も含めて壁面をシステム収納にしたことで広さも感じさせる

.....
具屋との造作でつくる②システム家具を組み合わせる③オーダー家具で造り込むなどがあがる。価格的にも大きく違う。写真ではシステム収納を採用している。終の住処と考えると、シス

て期こそ壁面収納が力を発揮するといえる。壁面収納には①大工と建

は、移動可能で、不足分を

システム家具を活用しよう

買い足すこともできる。各社も再利用を前提に規格寸法を変えず、既存色を作り続けている。こうして資源を再利用していくことは、エコロジーな選択といえる。若干の難点は、規格寸法を組み合わせるため、中途半端な残り部分が無駄なスペースになることだ。物の整理ができなくて「狭い！汚い！」は解決しない。長く住み続けるわが家が、いつまでも快適であるために、家具を買い足すのではなく、壁一面が収納できるスペースという壁面収納を考えてみるのも一つの解決策だろう。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士)